

令和7年度 全国学力・学習状況調査結果について

四季が丘小学校
校長 永野 真

本年度4月17日と22日に「令和7年度全国学力・学習状況調査」が行われました。本調査は、教育の成果や課題を確かめ、改善するために、6年生を対象に毎年実施されています。今年度の教科に関する調査については国語科、算数科、理科で実施されました。

今回の結果を受けて、校内で分析したことをもとに、各学年で指導方法の改善を進めていきます。

【教科に関する調査結果（平均正答率）】 (単位 %)

	国語科	算数科	理科
本 校	72	57	61
廿日市市	71	59	60
広 島 県	69	59	59
全 国	66.8	58.0	57.1

【国語科】

重点課題	「重点課題」に対する指導方法の改善内容
<ul style="list-style-type: none"> 話し手の考えと比較しながら、自分の考えをまとめることが難しい。 文章全体の構成を捉えて要旨を把握したり、目的に応じて必要な情報を読み取ったりすることが難しい。 	<ul style="list-style-type: none"> メモの取り方の具体的な指導を行うとともに、聞き取ったことをもとに自分の考えを整理してまとめる学習に取り組む。 説明文の読解において、「事実と感想」「原因と結果」などの情報と情報の関係を押さえて読み取ったり、段落ごとに大切な情報を読み取って要旨をまとめたりする学習に取り組む。

【算数科】

重点課題	「重点課題」に対する指導方法の改善内容
<ul style="list-style-type: none"> 図形の意味や性質について正しく理解できていない。 分数を単位分数の幾つ分として捉えることが難しい。 	<ul style="list-style-type: none"> 6年間を通しての系統的な指導を行い、低学年から図形の算数用語、意味について理解が深まるように取り組んでいく。 長さ、かさ、広さなどを分数で表す場面で、具体的な操作を取り入れ、単位分数を意識させる学習に取り組む。

【理 科】

重点課題	「重点課題」に対する指導方法の改善内容
<ul style="list-style-type: none"> 身の回りの金属について、電気を通すもの、磁石に引き付けられるものがあることの知識が身に付いていない。 実験・観察の結果をもとに、新たな問題を見だし、表現することが難しい。 	<ul style="list-style-type: none"> 中学年の学習において実験を多く仕組むようにし、実際の体験を通して、身の回りのものへの理科的な理解を深められるような学習に取り組む。 複数の自然の事物・現象を比較しながら実験・観察を行うように仕組み、差異点や共通点を捉えさせ、新たな問題に目を向けていけるような学習に取り組む。

【児童質問紙】

重点課題	「重点課題」に対する指導方法の改善内容
<ul style="list-style-type: none"> 「自分にはよいところがある」と捉えられない児童の割合が多い。 算数科の授業が、「苦手」「嫌い」「分からない」と考える児童の割合が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> 教師自らが児童のよさを積極的に評価するとともに、児童相互で個々のよさや頑張りを認める声かけができるような学級集団作りを行い、児童の自己肯定感や自己有用感を高めていく。 算数科で、各単元に入る前にレディネステストを行い、児童の実態を把握し、単元に必要な既習事項はできるようにしておく。 児童が「やってみたい」「できた」と思える授業づくりをするため、教材研究を行い、興味・関心をもてるような導入の工夫や自己選択・自己決定を取り入れ、主体的に学べる授業の内容や進め方を取り入れる。